

学校関係者評価報告書

学校法人 名古屋大原学園
大原法律公務員専門学校岐阜校
学校関係者評価委員会

令和 2 年 3 月に実施しました、自己点検・自己評価の結果をもとに、学校関係者評価の実施を行いました。「1. 教育理念・目標」以下 10 項目にわたり、学内で評価された問題点とその改善のための方策並びに両者に関する関係者からの評価と助言を掲載します。

1. 教育理念・目標

【課題】

教育理念・目標については、「適切」、「ほぼ適切」という評価である。

【今後の改善方策】

④「学校の理念・特色・育成すべき人物像の学生への周知」は、授業等で行っており問題ない。また、保護者への周知は、定期的に就学情報を郵送しているが、周知しきれない面が多少ある。それを補うために、保護者説明会を令和 2 年度は実施する予定である。学校と保護者が連携して、学生の成長を支えていく。

【関係者評価】

官公庁の求める人材像を、学生や保護者が正確に理解するために、学生や保護者に対する説明の機会を設ける点は評価できる。今後とも、継続してもらいたい。

2. 学校運営

【課題】

学校運営については、概ね「適切」、「ほぼ適切」という評価である。ただ、⑧「情報システム化による業務の効率化が図られているか」について「やや不適切」との評価があった。

【今後の改善方策】

教務活動や就職に関する情報システム化が進んでいるが、紙媒体の作成とシステム入力と重複が多く、時代の変化へ柔軟に対応していく必要がある。また、学生に対する連絡・映像授業の視聴・定期試験などで「Office365」の利用を始めており、職員相互で情報の共有を図り全員が効率的に活用できるようにしていく。

【関係者評価】

ペーパーレス、印鑑のコンピュータ処理、スキャナー読み込み自動入力システムなどの PC システムを構築すれば、かなり効率が図れるので前向きに検討してほしい。

3. 教育活動

【課題】

教育活動については「適切」「ほぼ適切」という評価である。

【今後の改善方策】

1年に2回実施する教育課程編成委員会で業界の意見を収集し、それを反映したカリキュラム編成と改良を重ねている。また、卒業するまでに「地域に奉仕する精神」を養ってもらうために、官公庁の採用担当者による官公庁説明会や先輩からの業務説明会の実施、役所と連携したボランティア活動を継続していく。

【関係者評価】

教育活動については成果が出ており評価できる。今後も継続して実践的な職業教育に尽力してほしい。

4. 学修成果

【課題】

学習成果の評価については、概ね「適切」「ほぼ適切」という評価である。ただ、③「退学率の低減が図られているか」については、「やや不適切」との評価があった。

【今後の改善方策】

③について、令和元年度の退学率は昨年度と比べ増加した。精神的なストレスを抱える学生のメンタルケアを図るとともに、保護者との連携も堅固にしていく。

【関係者評価】

公務員試験合格の中途採用による退学は、学校による教育成果と考えてよく、退学率にカウントする必要はない。そうすると、退学率は低く評価できる。ただ、それ以外の退学については、教員が、どうしてその結果になったのかをしっかりと把握し、学生とコミュニケーションをより一層取ってほしい。

5. 学生支援

【課題】

自己点検・自己評価結果では、「適切」「ほぼ適切」という評価である。

【今後の改善方策】

学習、人間関係、就職活動で精神的なストレスを感じる学生が、メンタルを崩すケースが見られた。校長、主任、クラス担任をはじめ複数の教員が相談を受ける体制を堅固にしていく。

【関係者評価】

メンタルを崩す学生を、校長、主任、クラス担任をはじめ複数の教員が相談にのる体制を堅固にしていることは評価できる。

6. 教育環境

【課題】

教育環境についての自己点検・自己評価結果は、①③について概ね「適切」「ほぼ適切」であるが、②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等についての十分な教育体制整備」について、「やや不適切」との評価が複数あった。

【今後の改善方策】

②について、授業を行う教室が学生数の増加に伴って手狭にならないように、大きな教室を利用していく。また、運動設備は学外の施設を利用しているが、トレーニング設備の学内設置を検討していく。なお、課外研修も経費と感染症予防を意識しながら、学生満足度が高まる研修を実施していく。また、学生向けの海外研修は実施していないが、職員が諸外国の魅力を今後も学生に発信していく。

【関係者評価】

今後到来するグローバル化社会に備えて、諸外国の魅力を職員が学生に発信していることは評価できる。今後も継続してほしい。

7. 学生の受入れ募集

【課題】

自己点検・自己評価結果では、「適切」「ほぼ適切」という評価であるが、事務職公務員コースの名前が分かりにくいと高校生・高校の先生からの指摘があり、コース名を変更するか検討している。

【今後の改善方策】

学生募集については、入学前に学校を正しく理解していただくために、学園ホームページ・案内書に、学校の基本情報、学科ごとのカリキュラム、公務員合格実績、就職実績、学内イベントなど正確な情報提供を今後も心がけていく。また、学校説明会や体験入学においては、参加者に対し、在学生から実際の学校生活について話をする機会を設け、学生目線からの学校情報の伝達を大切にしていく。

また、事務職公務員コースの名前の変更について、「国家一般職・税務職コース」や「県庁・市役所

コース」など公務員の働く場所が連想できるものにしていきたい。

【関係者評価】

事務職公務員コースの名前の変更について、「県庁・市役所コース」など具体的で分かりやすいと思うので賛成である。

8. 財務

【課題】

自己点検・自己評価結果では、「適切」「ほぼ適切」となっている。

【今後の改善方策】

現在の財務状況は安定しているといえるが、少子化等取り巻く教育環境の変化への正しい対応をしていく。

【関係者評価】

学校の信頼が高まり、入学も増え、財務の安定をしている状況は評価できる。

9. 法令等の遵守

【課題】

自己点検・自己評価結果では、①③④について「適切」「ほぼ適切」となっているが、②「個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか」について「やや不適切」の評価が複数あった。

【今後の改善方策】

②について、学園が定める「個人情報保護取扱規則」の周知により、学生の個人情報を安易に取扱うことはなくなったが、「個人情報にかかるデータは、外部のネットワークで繋がっている場所に保存しない」など徹底を図っていく。

【関係者評価】

高校等では個人情報の持ち出しはしていないし、USBについても使用を制限している。個人情報をメールで送信する場合は、必ずパスワードの設定をし、パスワードを別途送信している。また、紙媒体のものは鍵を掛けることができる場所で保管している。こういったルール徹底を図ってほしい。

また、この先もIT化はどんどん進むので、職員の知識レベルを上げるために、研修も実施してほしい。

10. 社会貢献・地域貢献

【課題】

自己点検・自己評価結果では、「適切」「ほぼ適切」が全体を占める。

【今後の改善方策】

ボランティア活動については、開校以来、積極的に学生に紹介している。このボランティア活動を通じて、「人のために尽くすことの楽しさ」を感じてもらい、次は、学生が自分のやりたいボランティア活動を探せるように指導していく。

【関係者評価】

「こんな時期だから就職がすごく大切。若い人たちが社会や地域に貢献して、これからの時代を変えていくチャンス」、「この変化に対応できるのが20代で、大きなチャンスがある」と先生から学生に伝えてほしい。

学校関係者評価委員会

役職	氏名	現職
委員長	鈴木 慎吾	元 岐阜城北高等学校 教頭
委員	浅野 直也	株式会社 ダックアサノ 代表取締役
委員	柳原 元気	げんき社会保険労務士事務所 社会保険労務士

以上